



日本と台湾の自由を守り抜き アジアに平和と繁栄を

台湾では今年5月、中国への毅然とした態度を明確に打ち出した頼清徳氏が総統に就任しました。これに対して中国は、台湾を力づくで呑み込もうと軍事的圧力を強めています。中国は「台湾の独立は許さない」といった恫喝を繰り返していますが、歴史上、台湾が中国の一部であったことはありません。幸福実現党は、「自由・民主・信仰」の理念を有する国として繁栄している台湾を守ることが、アジアの平和と繁栄を守るために不可欠であると考えています。



幸福実現党
党首 積量子

幸福実現党が台湾の立法院にて記者会見

幸福実現党は9月6日、台湾の国会に相当する立法院における台湾教授協会主催の記者会見で、台湾関係法試案を発表しました。

江夏正敏幹事長は「日本が台湾を一方的に断絶したことは“武士道”からみて間違った行為であった。今後の日本外交は、台湾と国交回復、同盟関係の樹立という方向に踏み出すべき」であるとし、国交回復や同盟関係の前段階として「台湾関係法」が必要であることを訴えました。そして、日台を含む信仰のある国が無神論国家である中国を包囲することで、第三次世界大戦の勃発をアジア・太平洋地域で食い止めることができると述べました。



台北市の立法院にて記者会見に臨む台湾教授協会 陳俐甫会長(中央)、江夏正敏幹事長(右から2人目)

時間: 2024.9.6 上午10點
地點: 立法院研究大樓101會議室

「台湾関係法 幸福実現党試案」について

現在、日本と台湾は法的根拠のない民間交流で成り立っている脆弱な関係にあります。「台湾関係法 幸福実現党試案」は、日本の国内法として日台のあらゆる分野における相互交流に法的根拠を与えるものです。同試案では特に、日台が「自由、民主、信仰」の理念を共有するパートナーであることを確認するとともに、「安全保障の協力体制を強化すること」を明確にしています。

詳しくは
こちらから▶



「台湾関係法 幸福実現党試案」について説明する江夏正敏幹事長

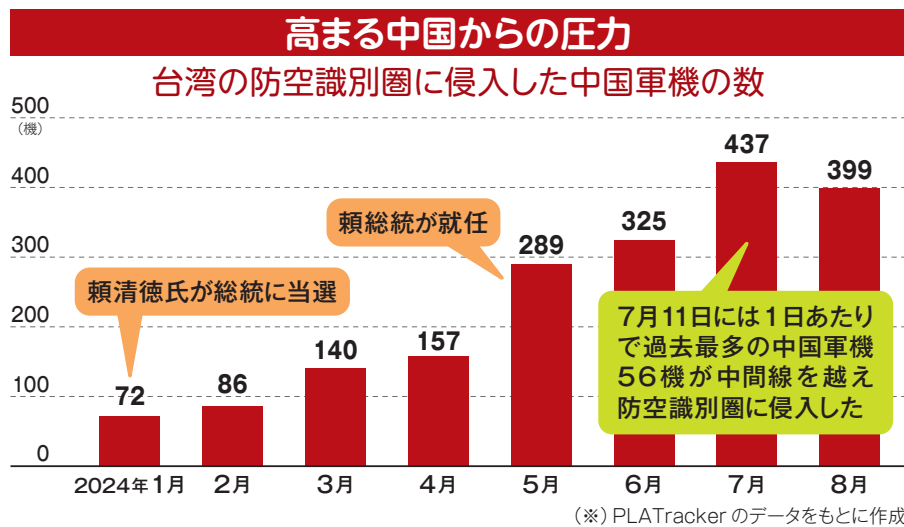
中国と台湾は別の国 — 台湾を二度と見捨てない

日本は1972年の日中国交正常化の際、台湾との国交を一方的に断絶しました。中国共産党は「台湾は中国の領土の一部だ」と主張していますが、事実ではありません。中華民国が中華人民共和国に領土を奪われたのが正当な歴史であり、台湾は中国と政治制度も異なり、別の国家として成長しています。台湾の有事に際して日本がそれを放置すれば、沖縄・尖閣にも中国の侵略が及びかねません。今こそ、日本は台湾を二度と見捨てない決意が必要です。

日本と台湾を取り巻く危機的な状況

中国による台湾への軍事的圧力

頼清徳新総統は今年5月20日の就任演説において「中華民国と中華人民共和国は互いに隷属していない」とし、中華民国台湾の主権独立の立場を強調しました。これに猛反発した中国は同23、24日の2日間に渡って台湾周辺で大規模な軍事演習を行いました。また7月11日には一日あたりで過去最多となる56機の中国軍機が、事実上の停戦ラインである台湾海峡の中間線を越えて台湾の防空識別圏に侵入しました。今年に入り、中国による台湾への軍事的圧力が高まっています(図)。



2027年までに台湾併合か—日本にも迫る危機



8月26日に長崎県男女群島沖の領海上空を侵犯した中国軍のY-9情報収集機 出典：防衛省ホームページ (<https://www.mod.go.jp/j/press/news/2024/08/26d.html>)



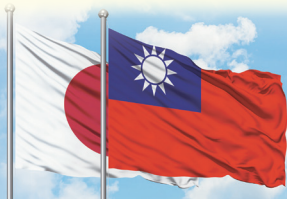
8月31日に鹿児島県沖の領海に侵入した中国海軍シュパン級測量艦 出典：防衛省ホームページ (<https://www.mod.go.jp/j/press/news/2024/08/31a.html>)

中国の習近平主席は、台湾統一のためには武力行使も辞さないことを繰り返し表明しています。その背景には、中国国内の不動産バブルの崩壊をはじめとした経済不況や、相次ぐ天変地異による国民の不満の高まりがあります。政権維持のためにも政権三期目の“成果”として2027年までに台湾併合に動く可能性が高いと考えられます。台湾有事が近づくにつれて日本周辺での中国軍の動きも活発化しています。今年8月26日には長崎県沖で中国軍用機が史上初の領空侵犯を行い、続いて31日には鹿児島県沖において、中国軍の測量艦が領海に侵入しました。

台湾を守り抜くために

台湾有事が迫る中、日本の防衛能力を高めることが急務です。憲法九条を抜本的に改正し、「国防軍」を組織することで「自分の国は自分で守る」ことができる世界標準の国となることが急務です。さらに幸福実現党は「日本と台湾は運命共同体」という考えのもと、以下の政策で台湾との関係を強化します。

- 1 日台FTA (自由貿易協定) の推進で経済連携を強化
- 2 「台湾有事は日本の存立危機事態に相当する」と閣議決定する
- 3 台湾関係法の整備
- 4 台湾を国家承認し、国交を回復する
- 5 日台同盟を実現する



書籍

『愛は憎しみを超えて』

中国を民主化させる日本と台湾の使命



李登輝氏からの手紙がきっかけとなり2019年、実現した台湾講演を書籍化！中国による軍事的脅威が迫る中、台湾の進むべき未来を指し示した著者自身のメッセージ。

大川隆法著
幸福の科学出版刊
1,650円(税込)



『メシアの法』

「愛」に始まり「愛」に終わる



地球を護る者の声。救世主が、いま日本に降臨している。「幸福」と「真理」を説き明かしている。そして、世界の混乱を終わらせようとしている。

大川隆法著
幸福の科学出版刊
2,200円(税込)



『幸福実現党 立党の原点』

仏国土・地上ユートピアを目指して



なぜ大川隆法総裁は幸福実現党を立党されたのか。立党の原点を改めて振り返る。

幸福実現党 編
幸福の科学出版刊
1,540円(税込)

